

# 井奥まさきの ニュース 市政報告NEWS

2006・5

5月号

(通算48号)

このNEWSは、みどり・市民派をめぐり高砂市議会議員井奥まさきによる市政レポートです。

いきいきネットより「なんでも賛成」議員では意味がない 発言と政策提言が本質

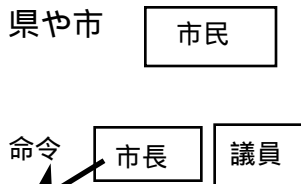
## 市議会の役割、市長の役割をもういっぺん考える

勝手に 地方自治検定  
「はい」「いいえ」でお答えを  
議員から市長が選ばれる  
予算の提案は議会で考える  
市長は議員よりエライ  
道路や照明灯は議員が職員  
に指示をして直す  
道路や下水建設は議員が予算  
をつけて建設する  
議員も市職員と同じように  
毎日出勤して仕事をする  
与党議員が市長を支える  
(答えは下にあります)

テレビは国会議員ばかり

政治家というとテレビで放映されるのはいつも「国会議員」です。ですので、どちらかというと国会の方が有名ですので、地方議会との違いを誤解されている人が多くいます。

本当は「国」と「地方」とは

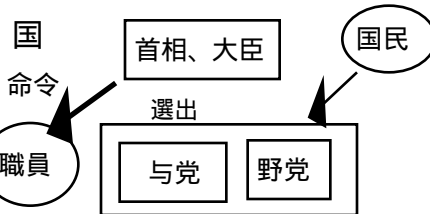


同じ議員でも根本的に違うのですが。

地方議員は提言とチェック

国では議員の中から首相と行政のトップ(大臣)を選びます。また、予算はほとんどは議員である首相や大臣が提出します。一方、地方議員は予算は作れません。せいぜい修正を提案するくらいです。

ですので、国は行政に密接に関わっていますが、地方では法律上は行政には提言とチェックに限定されているわけです。仮に国で「なんでも賛成」議員が



いても、それは「行政を支える与党だから」と言えます。

地方議会で「なんでも賛成」「発言なし」議員では市民から預かった権利をむざむざと放棄し、強大な権限を持つ市長の言うままになります。

また、法律外の「口利き」を重視しすぎると、神戸市の村岡議員の事例のような危険性があります。

強大な権限を持つ市長、そして市議会議員のあり方こそ、9月の大きな争点としたいものです。

### 子育て日記

## 4月の保育園は涙、涙の大合唱です



短い別れもイヤなんです

いろいろ考えて、夫婦で共働きを選択しました。4月から保育園にお世話になります。「慣らし保育」というこ

とで最初は1時間とか短い時間なのですが、それでも子どもにはダメのようです。うちの娘だけでなく、園内のあちこちから泣き声が聞こえます。3歳くらいの大きな子どもも保育師さんに抱かれて泣いています。

私も二度ほど付き添いましたが、別れ際に泣かれてしまうと少し落ち込んでしまいました。

でも担当の保育師さんは「最初に泣く子どもの方がいいですよ。すぐに慣れますよ」と

どしりと受け止めてくれたので、少し安心しました。

あいさつなど社交性が

それでも、少しずつ慣れて「いただきます」を覚えたり、歌に合わせて踊ったり、家では学べないことをたくさん覚えて家で披露してくれます。

「保育園にやって良かった」と夫婦で喜び、「さあ、明日は一日預けよう」とした矢先、高熱が続き、大騒動になりました。(つづく)

議事録のインターネット公開が公開中です。高砂市のホームページから閲覧できます。ぜひ議員の発言をチェックしてください。

「情熱、識見、責任」はウエーバーの文章からだそう。「情熱を持ちながら、冷静な現実判断をして、最終的な責任を取る」確かに政治家の一つの理想です。

お疲れさま

「情熱、識見、責任」のガンコな保守ロマンチスト  
加古議長 引退を表明

小沢さんの的なガンコ、強面政治を単純に「保守(右)」と「革新(左)」に分けるとしたら、現在高砂市には大きな二つの保守勢力があります。これまた単純に言えば、現職の田村市長派と批判派です。前者の代表が政友会で、後者の代表が政和会です。加古ときは議長は政和会の代表として政友会の生嶋議員と議長選挙を争い、2年前に議長に就任しました。

初めてお会いした時は「怖い人だなあ」というのが印象でした。口数は少なく、ぶっきらぼうなのでよく誤解される人です。民主党党首の小沢一郎さんを想像いただければタイプは少し似ています。

ロマンチスト保守政治家  
そして、その強腕さに似合わず、まっすぐな正義感を持つロマンチストでもありました。産業廃棄物処理場建設問題やごみ焼却施設問題では先頭に立って市長を追求しました。そして、報告集会では最後にいつも「アメージンググレイス」をバックにして「正義か妥協か」の演説をするのです。講師として参加したごみ問題専門家の津川敬さんはその姿を見て「ロマンチストだねえ」と評しました。

私もつきあいが長くなるにつけ、底にある暖かい人間性に惹かれました。また財政や経営分析はさすがに知識が豊富で勉強になりました。

加古さん、お疲れさま  
市政を憂えて市長選の立候補寸前だった加古議員ですが、岡恒雄さんの立候補表明を受けて引退を決意されたそうです。私は加古さんの「改革市政マニフェスト」も見てみたかったです。民間企業の社長経験を活かしたものになったはず。しかし、「本当に現市政をどう変えていくか」という冷徹な現実判断で岡さんの支援に回ると表明されています。その姿に保守の強さを見た気がします。

私は「右でも左でもなく、前へ」進むみどりの政治家として、加古さんのような保守政治家の良い点も見習いたいものです。

ともかく、加古さん、24年間お疲れさまでした。

「右でも左でもなく、前へ」はドイツ緑の党の選挙公約です。左より原理的に厳しく、右より現実的にものごとを前へ進めていく。それが私のめざす姿です。

私のテーマと提言

【財政】「借金できない」時代に備えた経営戦略を

	1999年 平成 11	2004年 平成 16
財務省	258 億円	284 億円
郵政	118 億円	171 億円
公営公庫	127 億円	139 億円
銀行・その他	97 億円	171 億円
借金の総合計	600 億円	765 億円

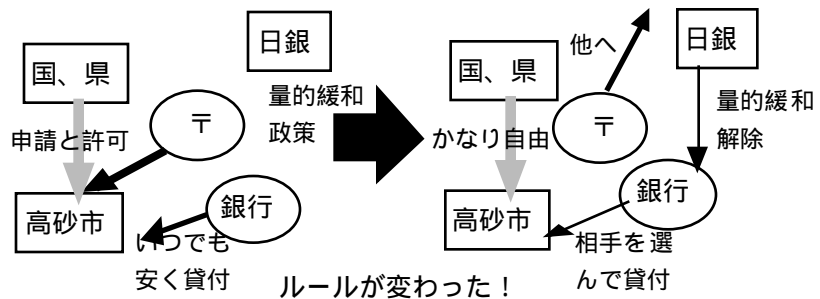
MIQ という漫画に「ルールが変わった」というセリフがありました。まさしく、自治体のハコモノ建設でもルールが変わりつつあります。

一つは、郵政改革で郵便貯金が別の有利なところに使われること。もう一つは、日銀が量的緩和解除を行い、お金の流れが悪くなり、金利が上昇していくようになったこと。

こうした結果、自治体が格

付けされ、ランクの低い自治体は貸してくれないか、高い金利で借りることになります。実は、高砂市は新ルールの実質公債費比率で20%以上と悪い方の自治体なのです。

神戸新聞3月24日の記事でまさしく私と同じ考えのコラムがあり、兵庫県立大学の赤井伸郎さんがコメントしています。「(自治体破たん法など



に備え) 公社なども含めた資産、負債を整理し、財政を健全化させる必要がある」

井奥の提言 こうすべき

経営指標を良くしないと「借金」ができなくなる。「財政調整基金」を30億円は持つべき

下水道会計、病院会計の健全化を資金調達のノウハウ蓄積のためにも「ミニ公募債」の発行を  
土地開発公社の経営健全化のためにも「不良債権引当金」を

イベント情報 まちづくり協議会は、毎月第三土曜日午後2時～中央公民館を定例会とします

まちづくり連続市政勉強会 5月20日(土) 6月17日(土) 主なテーマ 市政マニフェスト検証